

- 1 開催日：令和4年12月20日（火）13時31分～13時44分
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題1 「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」について

●鈴木デジタル戦略企画課班長兼企画員（資料2に基づいて説明）

計画策定の経緯です。「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」については、令和4年10月に常任委員会で中間案を提示し、パブリックコメント等を実施しました。その後、パブリックコメントの結果やみえDXボード等の有識者からの意見をふまえ、最終案を取りまとめ、先般12月13日の常任委員会において最終案をお示ししたところです。

中間案からの主な変更点についてです。有識者からは、内容については特にご指摘をいただきませんでしたでしたが、県民の皆さんに届くように、全体的なデザインを見直してはどうかというご意見をいただきましたので、次のとおり変更しました。

1点目、この計画の取組を進めることで、みえのデジタル社会の未来がどのようなになるのか、県民の方に伝わるようなイラストを追加してはどうか、ということで、表紙・裏表紙に、みえのデジタル社会の未来について、イラストを追加しました。

2点目の変更点ですが、分野別、暮らし、しごと、行政のめざす姿について、もう少し具体的に県民に伝わる文言を追加してはどうかということで、資料2の10ページをご覧ください。中間案では、左側の部分に、暮らしのDX、しごとのDX、行政のDXのめざす姿を文章で記載して、取組方針として2行くらいの文章を入れていましたが、分かりにくいというご指摘をいただきましたので、例えば、暮らしであれば「毎日の生活が豊かになる」「どこでも快適なデジタルインフラ」「都市に負けない利便性と可能性」というキーワードを追加して、伝わりやすい表現に変更しました。

次に11ページ、3点目の変更点ですが、分野別の取組について、何のためのDXなのかを示すべきではないかとの意見をいただきましたので、それぞれの立場に応じた活用事例として、「子育てしている方」や「障がいのある方」「働いている方」に応じて、DXが進むとどういうことが実現できるのか、ということをそれぞれの場面に応じてマトリックスの表で整理しています。

その他の変更点としては、「県庁DXの推進」にかかる各取組をまとめた表を新たに入れていきます。変更点は以上になります。

パブリックコメント及び有識者からの意見につきまして、パブリックコメントについては、意見数は16件、そのうち、反映済が7件、今後の取組に取

り入れていくか検討していくものが9件としています。

主な意見として、反映済のものでは、DXの基盤として期待される5Gについて、サービスが都市部に限定的にならず、全国でサービスが享受できるよう国等に働きかけてほしい、ですとか、商工会議所の経営指導員等へのDX推進に必要な知識・技術を身につけるための研修など、中小企業等に対するプッシュ型の人材育成に取り組んでほしい、といったご意見をいただいています。

次に(2)有識者からのその他の意見としては、高齢者へのスマホ教室はいい取組であるが、スマホがなければ生きていけない世界を作ることがDXではない。スマホがない人でも不便なく暮らせるのがいいDXである、また、デジタル人材の育成は男性が圧倒的に多いので、女性のデジタル人材を育成しないとさらに格差が広がる、といった意見をいただいています。

次のページをご覧ください。参考として、今回、パブリックコメントとともに、今後のデジタル施策の参考とするため、「行政に声を届けるウェブサイト(PoliPoli Gov)」という仕組みを試験的に導入しました。伝わりやすいデザイン、ツイッターを用いた情報発信など、パブリックコメントでの意見募集と比べて若者の意見を集めやすい特徴があります。このPoliPoliGovを活用して「デジタルの力で解決された地域課題の事例」、「デジタルの力で解決したい地域課題」の2つのテーマで意見募集を行い、それぞれ69件、144件の意見をいただきました。主な意見はご覧のとおりとなっています。

頂いた意見への対応としては、各部局に情報を共有するとともに、デジタル社会推進局としても支援するなど、今後の施策に反映していきたいと考えています。

今後の予定です。本日の本部員会議で承認いただければ、市町・関係機関等へ周知するとともに、県民の方へホームページ・SNS等で周知を図っていきたいと考えています。

説明は以上となります。

●三宅デジタル社会推進局長

何かご質問等があればお願いします。今回、デジタルの計画ということで、従来のような、A4縦の文書版ではなく、このような形で計画にさせていただきたいと考えています。それから、計画の策定後、これで4年間コンプライトではなく、定期的に見直しをかけていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

☆田中CDO

私自身、昨年4月の三重県CDOへの着任以来、この1年8カ月で最も時間をかけて取り組んできたのが、本計画の策定となります。すぐに計画を策定す

るのではなく、県民の皆さんと一緒に未来を描きたいという想いで、県民の皆さん同士で目線を合わせた対話ができるように、未来を構成する要素を取りまとめた動画を制作しました。

デジタル社会推進局が創設され2カ月目ぐらいから準備に取り掛かかりましたので、まだまだ組織としても歩み始めたばかりというところで、デジタル社会の形成という前例もなく正解もない領域で、局員が非常によく頑張ってくれました。そして、その動画を見て目線を合わせた対話として、コロナ禍で厳しい時期でありましたが、県内5カ所を実際に回って対話、オンラインでの対話などを通じて、本年3月に公表しましたのが「三重県のデジタル社会の未来像」です。

この県民の皆さんが描いた未来像を参考に、「どんな社会をめざしてデジタルを活用するのか」について、局員が自分ごととして毎日議論を重ねて、みえDXボードや、みえDXアドバイザーなど有識者の意見も伺いながら、「どうしたら県民の皆さんに伝わるのか」ということを考え抜いて、一つひとつの言葉を選び、色やデザインの調整をして、1年半かけて作り上げてきたのが、この「みえデジプラン」ということになります。

この「みえデジプラン」は、行政のDXだけではなく、社会のDXも含めたデジタル社会形成全般を対象としていることが一つ目のユニークな点になります。また、基本理念として『みんなの想いを実現する「あったかいDX」』を掲げ、生産性の向上や利便性の向上だけではなく、県民の皆さんの自己実現を図る、人間中心のデジタル社会をめざしていくこと、めざす姿として「誰もが住みたい場所に住み続けられる三重県」とし、そのためのデジタル社会であるということ、そして、ジェンダー平等やダイバーシティ、サステナビリティという新しい社会づくりに必要な前提条件を「寛容な社会」として設定していること、その全てが他県にはないユニークなポイントということになります。

各部局におかれましては、この「みえデジプラン」に掲げています、基本理念、めざす姿、前提条件、そしてDXの推進にあたっての視点につきまして、ぜひ、あらゆるDX関連事業や、デジタル社会の形成に関連した事業の際に、改めて所属の中で対話を進めていただきまして、この「みえデジプラン」を羅針盤としてご活用のうえ、各事業を推進していただけるようお願いいたします。

●三宅デジタル社会推進局長

知事から何かありますでしょうか。

☆一見知事

私からはまず今回の戦略推進計画を定めていただき、デジタル社会推進局を初め、関係部局の皆さんにご苦労さまでしたということをお願いしたいと思います。立派なものをつくっていただきまして、良かったと思います。

D Xはコロナ禍で、その必要性が再認識されましたが、これから人口減少が進んでいく社会においては革命的な生産性向上が絶対必要でありますので、デジタル化も避けて通れません。この計画に基づいて進めていくということをお願いしたいと思います。

その上で2点お願いがあります。一つは以前から申し上げていますが、行政手続です。このデジタル化、これは県民の利便性の向上のためにも必要であります。令和6年度までだったかと記憶していますが、我々の手続、75の手続を進めていくということで、目標を掲げています。これをさらに広げていくということも含めて、各部局においてもデジタル社会推進局と一緒に推進していただきたいと思っております。

三重県も決して遅れているわけではありませんが、先進的に進めている、例えば、北見市とか行橋市など、手続のデジタル化の割合が高いけれども、そういった先進事例も学びながら、また三重県の良さも他の自治体にも示しながら進めていただければと思います。

それから2点目は県庁のD Xの推進です。予算もかかる話ではありますが、県民のためにも、それから県庁職員の負担の軽減のためにも必要なものだと思います。総務部ともよく相談をしながら、ぜひ進めていっていただきたいというこの2点をお願いしたいと思います。

●三宅デジタル社会推進局長

ありがとうございました。それでは、「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」を原案通り決定ということにさせていただき、本部員会議を終了いたします。